

中央設計技術研究所

売上高30億円達成へ

第59期経営計画発表会開く

中央設計技術研究所(略称「CSE」、金沢市)は10月31日、今期のキックオフとなる第59期経営計画発表会を金沢市アトホールで開き、今期計画の達成に向けて全社員が決意を新たにしました。

この発表会は例年10月期のスタートに合わせて開催しているもので、同日は全国から150人を超える社員が参加した。はじめに、全員での経営理念の唱和に続き、中辻英二社長が今期の経営方針を発表。このなかで「前期の受注目標は若干下回ったが、売上目標は達成できた。営業利益率

もグループ内でトップクラスにある。社員数は13人純増の193人となった」と前期を振り返った上で、今期経営目標について「業績の安定には受注が第一であり、大手建注と戦いながら、今期も継続して受注領域の拡大を目指す」と強調。具

体的にはDB、DBOなど官民連携事業の推進、新開発した低価格のアセツトマネジメントシステムの販売、人材獲得のための報奨金制度の継続、技術士合格者数の拡大などの方針を示し、「今期はCSE2020年ビジョンの最終年として、売上高30億円の達成が見えてきており、皆でがんばろう」と呼びかけた。

引き続き、各部門の経営方針の発表に移り、管理本部は知名度及びブランド力向上への広報活動の推進や、ビジョンの目標値である社員数210人の達成に向けた人材採用に努力するとしたほか、技術・営業戦略についてパネルディスカッションを開き、技術部門では業務の方向性や目標、営業部門は「提案営業の更なる推進に向けて」をテーマに、各部署の代表者が発表した。

その後、女性協議会など各種協議会・ワーキンググループの活動報告、第58期表彰として永年勤続表彰や業績表彰などを執り行った。

また、同日は親会社のオリエンタルコンサルタンの元社長・会長であった、清野顕彰財団の清野茂次理事長が特別講演した。



経営方針を発表する中辻社長(左)と各部署の代表者によるパネルディスカッション